

社会科学習指導案

日時 平成21年11月17日(火)

学級 紫波町立紫波第一中学校

1年7組 計34名

場所 1年7組教室

授業者 川村 雅代

1 単元 第3章 中世の日本と世界(教育出版 中学社会 歴史)

2 単元について

(1) 教材について

この単元は、武士が台頭し武家政権が成立する12世紀ごろから16世紀までの歴史を扱い、我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連に着目して考えさせる内容になっている。「鎌倉幕府の成立」、「南北朝の争乱」と「室町幕府」、「東アジアの国際関係」、「応仁の乱後の社会の変動」などを通して、武家社会の特色を考えさせるとともに、わが国が、東アジア世界と密接なかかわりを持っていたことを理解させたい。特に「武家政治の特色」については、武士が台頭し、やがて「主従の結びつきや武力を背景にして」東くに武家政権が成立した様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考えさせ、自分の言葉で表現できるような授業の展開を心がけたいと考えている。

(2) 生徒について

新研式学力検査(NRT)の結果を見ると、全ての領域で全国平均を上回っているのだが、小学校での歴史学習が、主な歴史上の人物と出来事が中心であるためか、本単元に関わる小問題「壇ノ浦の戦い」「いざ鎌倉」「元の襲来」の通過率は、全国数値を下回っている。学習に臨む姿勢は良好で、ほとんどの生徒が授業に集中して取り組んでおり、特に新たな知識の習得や作業に取り組む意欲は高い。ただ、資料を読み取って考察したり、自分の考えを論理的に述べることには消極的であり、意欲的に発言する生徒は限られている。そこで、授業の改善に取り組む中で、自分の考えを記述させ、それを発表する形式を意図的に行ったところ、自分の考えを述べることに抵抗感を持つ生徒が減少してきたように思う。しかし、意見の交流は好むが、一方的な提示の形にとどまり、相手に質問をするなどの意見を絡ませる交流には至っていない状態であり、その点が課題である。

(3) 研究に関わって

新学習指導要領では、社会的事象を説明したり、記述したり、自分の意見をまとめたり、意見交換をするなどの学習を通して、思考力・判断力・表現力を養い、学習内容の確かな理解と定着を図るために「言語活動の充実」に重点を置いている。また本校社会科教科班が「表現力を高める授業のあり方」として重視する点も「言語活動の充実」にある。そこで日々の授業において、様々な手だてを講じながら「言語活動の充実」を図り、「表現力」を高める必要があると考える。社会科として考える「表現力」とは、次の3点である。

① 社会的事象に対して、疑問点や自分の考えを書き表す(記述する)力

② 生徒同士の話し合いの中で、疑問点や自分の考えを述べる(説明する)力

③ 社会的事象について、自分の体験や考え、解決策を発表する(論述する)力

この3つの「表現力」を高めるためには、その背景にある「見えない力」を高めていくことも重要と考えている。「見えない力」とは、次の3つととらえている。(※は高めるための手だて)

ア 話を聞いて内容を理解し、自分の思考に取り入れようとする聴解力

(※メモを取りながら話を聞いたり、発表場面で使用する学習シートに工夫を加える)

イ 自分の考えを明確にする力

(＊自分の考えを整理し推敲するために、考えを記述させたり、授業の終結段階に「分かったこと」を記述させる)

ウ 表現したいことを確かに伝達する力

(＊分かりやすく伝えるためには、語彙力を豊かにすることが必要であり、授業の導入部分での小テストを実施したり、授業の中に意図的に考えの交流場面を設定したり、発表の仕方のパターン訓練を行う)

本単元においては、上記の点を最大限に考慮し、言語活動が活発に行われるような活動場면을授業の中に意図的に組み入れることで、生徒の「表現力」の向上をねらいとしている。

3 単元の目標

- (1) 武士の台頭や武家政権の成立、その後の武家社会の発展に関心を持ち、意欲的に追求することができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 鎌倉幕府の成立、承久の乱、元寇後の社会的な変動を通して、歴史の流れや時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断)
- (3) 様々な資料を適切に選択し活用するとともに、そこから考察した結果をまとめたり、わかりやすく説明したりすることができる。(技能・表現)
- (4) 院政と平氏政権の成立、戦乱を背景に誕生した新しい仏教、モンゴル帝国の成立過程と東アジアへの勢力拡大の様子などを理解することができる(知識・理解)

4 単元の指導計画と評価計画

時間	学習内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	評価方法
1	武装する豪族たち	武士が台頭した経緯について関心を持ち、意欲的調べるなど学習に臨んでいる	武士がどのようにして起こり、勢力を伸ばしたのか資料をもとに考察できる		院の政治や平氏政権が、荘園の支配と武士の武力を基盤に成立していた事を理解できる	観察 学習シート ノート
1	鎌倉幕府の成立	貴族政治から武家政治への変革に関心を持ち、武士が何を求めたかを進んで調べようとする		鎌倉幕府の仕組み等の資料から、武家社会の特徴をまとめて発表することができる		観察 学習シート ノート 発表
①	承久の乱	ワークショップ型の授業に意欲的に取り組み、参加することができる	承久の乱が社会に与えた影響について資料から考察することができる	御家人の立場から当時の社会状況について考え、自分の意見を伝える事ができる		観察 学習シート ノート 発表
1	武士と民衆の暮らし			絵や資料から分かる事を具体的に指摘し、武士や民衆の暮らしと結びつける事ができる	戦乱の続く時代を背景に民衆にも分かりやすい新しい仏教が起こったことを理解できる	観察 学習シート ノート 発表
1	おしよせる元軍	元軍と日本の御家人との戦いについて関	元寇が幕府政治に与えた影響につい		モンゴル帝国(元)の成立の過程と東	観察 学習シート

		心を持ち、戦法の違いや幕府の対応について調べようとする	て資料から考察する事ができる		アジアへの支配拡大について理解する事ができる	ノート
2	地域にある建物を調べてみよう	身近な地域の歴史に関心を持ち、意欲的に調べようとする		調べた事を整理し、分かりやすくまとめることができる		観察レポート

5 本時について

(1) 主 題 承久の乱 一どちらに従うか、今すぐ申してみよ！

(2) 目 標

- ・「自分が御家人であったなら、承久の乱の時どう行動するか」という問いに対し、仲間と考えを交流しあいながら、自分の考えを深め、わかりやすく伝えることができる。 【技能・表現】
- ・承久の乱当時の御家人の立場を追体験することによって、当時の社会状況やこの乱が社会に与えた影響について考えることができる。 【思考・判断】

(3) 本時の構想

本時の授業では、前時までに学習した「鎌倉幕府の成り立ち」や「当時の社会状況」を踏まえ、課題に対する自分の考えを持たせる。さらにその考えによって教室の各コーナーに分かれさせ、同じ意見の生徒や、意見の違う生徒と考えを交流する中で、自分の考えを磨いていく活動が中心となっている。「承久の乱」は、当時の御家人たちが「朝廷方」「幕府方」どちらで戦うかを問われた出来事であり、朝廷と幕府の二重支配となっていた鎌倉初期において、武士の支配力を強固なものにする転機となった出来事である。その意味でこの乱のもつ意味は大きい。

「朝廷方」につくべきか、「幕府側」で戦うべきか、という生徒の考えの迷いは、当時の御家人たちの迷いそのものであり、御家人たちの思いを追体験しながら当時の社会情勢について考えさせたい。また、本時では意見交流の場面を意図的に2つ設けている。「提示する形」の個別交流は、自分の考えを相手に伝える（対話）ことを目的とした意見交流であり、「絡ませる形」の全体交流は、発表者の意見を聞きながら、自分との相違点や疑問点をメモしながら聞き、質問したり反論したり、付け足したりという意見交流場面である。自分の考えを述べることに消極的な生徒が多い実態から、意図的にこのような意見の交流場面を授業の中に設定することで、自分の考えを深めさせると共に、表現させたいと考えた。そして最後に、承久の乱の結末を資料提示し、承久の乱の勝敗の理由や、この乱がその後の社会に与えた影響（武士の社会が全国に広がっていったこと）について、学習の振り返り場面で考えさせたい。

さらに本時では、生徒の実態を踏まえたうえで、研究に関わる「表現力を高める手だて」を、以下のような意図を持って指導したいと考えている。

○「聴き取る力」を高めるために（意見の交流の場面では）

① 質問することを念頭に置いて聞かせる。

② 集中して聞き取るためにメモをとらせる（疑問な点・自分の意見との違いを確認しながら）

○「自分の考えを明確にする力」を高めるために（自分の立場を明らかにする活動場面では）

① 学習シートに自分の考えを記述させる。その際、なぜそう考えたのか（理由）も記述させる。

○「確かに伝達する力」を高めるために

① 授業の中に意見交流の場面を意図的に設け、発表の仕方を工夫させる。

（短めに結論→事実をもとに理由を述べる→根拠となった資料を提示する）

（疑問点を聞き返す、自分との意見の違いを述べる、建設的に反論する）

(4) 本時の展開

★使用する教具・資料 ☆留意点・発問 ■評価場面 □研究に関わる場面

段階	学習項目	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 本時の確認	・本時の学習の流れを確認する	5分	☆正解・不正解を決めるのではない、なぜそう考えたのか理由を明確にすることが大切と伝える
	2 課題の設定	・本時の課題を確認する		☆課題は、教師側から提示する
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 御家人の立場になって 当日の社会の様子や、承久の乱後の社会の変化を考えよう。 </div>				
展開	4 第1ラウンド	・資料①②を見て、「朝廷方」・「幕府方」どちらにつくか自分の考えを明らかにし、その理由を付箋に記入する。 ・3コーナーに移動する。 ・同じ意見の者同士で、お互いが考えた理由を付箋で伝え合う。 ・課題に対する自分の考えを学習シートに記入する。	15分	★資料①「後鳥羽上皇の院宣」 ★資料②「北条父子の会話」 ☆発問：「朝廷方・幕府方、どちらに従うか今すぐ申してみよ！」 ☆「朝廷方」「幕府方」「迷ってござる」の3コーナーを教室に設置する。 □「確かに伝達する力」を高める手だて→ <u>3色の付箋を用いて考えを伝える。(理由を記入)</u> ピンク・・・朝廷方 イエロー・・・迷っている ブルー・・・幕府方 □「自分の考えを明確にする力」を高める手だて→ <u>学習シートに自分の考えを記入する。</u> ★学習シート ☆なぜそう考えたのか、理由を明確にすることが大切だと伝える。
	5 意見交流 (個別交流) (提示する形)	・仲間と自由に対話させる。(2人以上と交流しよう) ・仲間の意見を聞いて、再度自分の立場を考える。		☆自分と立場の違う2人以上の人と意見を交流させることを指示する ☆自分の考えや立場を変えてもいいことを伝える。
	6 第2ラウンド	・資料③を読んで、再再度「朝廷方」「幕府方」どちらにつくか、自分の考えを学習シートに記入する。その後、自分と同じ立場のコーナーに移動する。	20分	★資料③「北条政子の訴え」 ★学習シート □「自分の考えを明確にする力」を高める手だて→ <u>学習シートに自分の考えを記入する。</u>

	<p>7 意見交流 (全体交流) (絡ませる形)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの立場ごとに意見を交流する。(対面式で行う) ・仲間の意見を聞いて、最終決断をする。 ・最終決断を発表する。 		<p>☆なぜそう考えたのか、理由を明確にすることが大切だと伝える。</p> <p>☆質問することを念頭に置いて聞かせる。</p> <p>□「聴き取る力」を高める手だて→<u>他の人の意見を聞きながらメモをとる</u> (疑問点、自分との違い)</p> <p>★学習シート(メモ欄)</p> <p>□「確かに伝達する力」を高める手だて→<u>発表の仕方</u></p> <p>■評価：【技能・表現】</p> <p>自分の考えをまとめてわかりやすく発表することができる</p> <p>方法：観察、学習シート</p> <p>☆その場で挙手させる。</p> <p>☆発表は1～2名</p> <p>考えが変わらなかった生徒</p> <p>考えが変わった生徒</p>
<p>終結</p>	<p>8 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「承久の乱」の結末について理解する ・授業を振り返って、学習シートに分ったこと(考えたこと)を記入する ・発表(仲間の発表を聞き学びあう) 	<p>10分</p>	<p>★資料④「承久の乱後の社会」</p> <p>★学習プリント</p> <p>☆学習プリントには、振り返りの視点を書いておく</p> <p>視点①御家人の心を揺り動かした決めては何か?</p> <p>視点②「承久の乱」によって、その後の社会はどのように変わったのかな?</p> <p>■評価：【思考・判断】</p> <p>承久の乱についてわかったことや、この乱が社会に与えた影響について考え、記述することができる</p> <p>方法：観察、学習シート</p>

《資料1》後鳥羽上皇の院宣

院 宣

鎌倉幕府が成立してからというもの、幕府の役人達は、朝廷の権威をも恐れず我が物顔で振舞っている。特に、執権北条義時は、源氏の将軍亡き後、まるで鎌倉幕府の将軍であるかのように振る舞い、権力を握り始めている。朝廷を恐れぬその仕業は、実に許し難い。

よって、全国の武士たちに命令である。

執権北条義時を打ち倒すべし

この命令に従ったものは、褒美は望むままに与えられると心得よ。
さあ、今すぐ北条義時の首を持って参るがよい。

後鳥羽上皇

「日本の歴史」（中公文庫）より

《資料2》北条義時・泰時父子の会話

鎌倉幕府の執権・北条義時とその子・北条泰時が、 都に攻めのぼる前に交わしたという会話

子・泰時 「父上、これからの戦いの時に、もし、上皇がみずから兵を率い、先頭に立って攻めてこられたならば、どういたしましょうか。私は、その上皇に弓を向けても良いのでしょうか」

父・義時 「泰時よ。もし、上皇がみずから出陣されたときは、もはや我々は武器を捨てて降伏するよりほかない。しかし、もし上皇が都にいて、その軍隊だけが攻めてきたのなら、あくまで戦うがよい」

北条父子の会話「増鏡」より

尼將軍北条政子の訴え

全国の御家人たちよ、よく聞くがよい。皆のものは、昔、朝廷の警備について惨めな生活を送っていたことを忘れたのだろうか。そのような暮らしをあわれめと思い、恩賞を与え、皆の領地を守り、安心して暮らせるようにしてくださったのは、今は亡き頼朝公である。皆はそのご恩を忘れてもよいのか。そのご恩を忘れ、この鎌倉を都の武士どもに踏み荒らされてもよいというのか。ここをよよく考えて欲しい。それでも上皇の命に従うというのなら、それもよかろう。そのものたちは、今ただちに申し出よ。

政子の訴え「承久記」より

院 宣

鎌倉幕府が成立してからというもの、幕府の役人たちは、朝廷の権威をも恐れず我が物顔である。特に、執権・北条義時は、源氏の將軍亡きあと、まるで自分が將軍であるかのように権力を握り始めているではないか。朝廷を恐れぬその仕業は、許すことができない。

そこで、全国の武士たちに命令である。

執権・北条義時を打ち倒せ！！

この命令に従ったものには、褒美は望むままに与えよう。
さあ、今すぐ北条義時の首を捕って来るがよい。

後鳥羽上皇

鎌倉幕府の執権・北条義時とその子・北条泰時が、 都を攻撃する前に交わしたという会話

泰時 「父上、この戦いで、もし後鳥羽上皇みずからが兵を率いて先頭に立って攻めてきたなら、私は上皇に弓を向けてもいいのでしょうか？」

義時 「息子よ、もし後鳥羽上皇みずから出陣された時は、我々は武器を捨て降伏しなくてはならない。しかし、もし上皇が都にいて、軍隊だけが攻めてきたのなら、幕府のために戦うがよい」

尼將軍・北条政子の訴え

御家人たちよ、よく聞きなさい。これが最後のことばです。
皆のものは昔、3年間の朝廷の警備の仕事を終えたとき、費用を使いはたして馬まで手放し、とぼとぼ裸足で歩いて帰ってきたではないか。頼朝様はその姿をあわれに思い、3年を半年に縮め、さらに御家人たちには恩賞を与え、皆の領地を守り、安心して暮らせるようにして下さった。
その恩は山よりも高く、海よりも深いものでした。

この情け深い頼朝様のご恩を忘れて、
上皇（朝廷方）の命に従うというのか。
それとも鎌倉にとどまって將軍家に奉公するのか。
— 今ただちに申してみよ！！ —

政子の訴え「承久記」「吾妻鏡」より